

ちほみのり栽培暦（巻農業普及指導センター地域版）

【品種の特徴】

- 出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ7日早い早生のうるち種
- 耐倒伏性は強
- 穂発芽性はやや易
- 茎数は確保しやすい

【生育のめやす】

生育ステージ	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)
最高分けつ期 (6月28日頃)	10.5	52	660	42
幼穂形成期 (6月30日頃)	10.8	55	640	42
2回目穂肥時 (7月8日頃)	12.2	70	600	42
出穂期 (7月21日頃)	13.0	稈長 74	540	42

【収量構成要素のめやす】

目標収量	720kg/10a
穂数	540本/m ²
一穂粒数	70粒
m ² 当たり粒数	37,800粒
登熟歩合	85%
千粒重	22.5g

【主な作業と生育ステージ及び管理のポイント】

時期	4月		5月				6月				7月				8月				9月	
	20		10	20			10	20			10	20			10	20				
主な作業と 生育ステージ	播種		田植え				中干し				穂肥		穂肥		落水				収穫	
											幼穂 形成期		出穂期						成熟期	

基肥施用	田植え	中干し・溝切り	病虫害防除	穂肥施用・水管理	収穫・乾燥・調製
<ul style="list-style-type: none"> ・基肥窒素量は分施の場合は7kg/10a、基肥一発施肥の場合は13～15kg/10aをめやすとし、ほ場の地力に応じて加減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えは5月上旬に行う。 ・栽植密度はm²当たり18株(60株セット)以上とし、1株苗数は4～5本とする。 ・鳥害を回避するためほ場の団地化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中干しは、小ヒビが入る程度とし、出穂期1か月前までに終了する。 ・溝切りは中干しの効果を高めるため、必ず実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉いもち防除は、育苗箱施用等により必ず行う。 ・葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行う。 ・紋枯病防除は、前年の発生が多かったほ場では予防防除を行う。 ・斑点米カメムシ類の防除は、草刈り及び加害種に応じた薬剤防除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂肥は出穂期25～23日前(幼穂形成期頃)と14日前頃の2回に分けて施用する。 ・出穂が早いので、1回目の穂肥時期が遅れないように注意する。 ・1回目の穂肥量は窒素成分で3～4kg/10a、2回目を2～3kg/10a、合計6kg/10aをめやすとする。 ・出穂期頃までは、葉色(SPAD値)40以上に保つ(基肥一発、分施とも必要に応じて追肥する)。 ・出穂期25日後までは飽水管理とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期は黄化粒割合が90%になった頃であり、積算温度950～1,000℃をめやすとする。 ・胴割粒の発生を防止するため、乾燥は適正温度で行い、急激に乾燥させない。

